

里山体験・芋掘りとおおきくおもしろい

前日は終日曇り空、しかも当日の降水確率は50%。これで果たしてできるのか、といった心配通り、朝から雨。しかし、行くだけは行こう、と思いながら「ならやまベースキャンプ」まで行きましたが、こんな心配は吹き飛んでしまいました。

佐保台小と大阪の三宅柳田小併せて36名の児童、そして引率者や当会サポーターを加えて90名近い人数が、狭い「ならやまベースキャンプ」に集まり、熱気でムンムンの一日でした。

最初に開会式。ここでは初めて顔を会わす両校のコーディネーターから各校の紹介があり、お互いの学校への理解を深めました。また、普段過ごしている環境とは違った中で過ごすのに必要な注意についても話がありました。

そして本日のメインである最初のプログラム、芋掘り。最初は交互に山遊びと芋掘りをする予定でした。悪天候のためそれはかなわず、両校一緒に芋畑に入り芋掘りをする事になりました。最初、こんなに多くの人数が一度に畑に入り、芋掘りをするのは大変ではないか、と案じられましたが、それも杞憂に終わりました。つるきりや石拾い、そしてお待ちかねの芋掘りまでに、徐々に子供たちの歓声は高まるばかり。特に土の中から顔を出す芋の大きさには皆驚いた様子で、中には2kg近い大物もありました。そのあとは掘った芋やつるでのコンテストです。一番重い芋は、一番長いつるは、一番面白い形をした芋はどれ、などと考えながらそれぞれシートに並べていきます。

そのあとで表彰式を行いますが、手作りの木の実で作ったメダルも、全部の班に行き渡り、皆満足顔でした。やはりこういった経験は、思い出に残ることでしょうね。

昼食後は、各校交代で丸太切りとならやまの散策をしました。特にならやまの散策では結果的に子供たちは、散策するのではなく、池の周りを離れません。池の中に網をいれてかき回したり、バケツの魚やエビに手を伸ばしたり・・・。本当に泥まるけになった児童もいましたね。散策など念頭になかったのでしょう。



また、丸太切りでも大きい児童も小さい児童も普段やったことのない活動にチャレンジ。必死なそして満足気な顔が皆に共通していました。いずれも30分という時間的な制約の中での活動・・・、本当にもったいな、と実感しました。時間をもっと考えるだけで、もっと充実した活動になるのでは、と思いながら、こういった体験が将来必ずどこかで生きてくるのではないかと、とも考えました。その証左が児童の生き生きした表情であり、目でもあるのでしょう。

そして閉会式。帰る時間を気にしながらの進行でしたが、また機会があれば来てね、とまとめました。その際に配られた芋や焼き芋もいたく気に入られたようです。特に芋は重かったのでは・・・でもこの重さが今日の満足の重さなのでは、と思いました。

この会の準備や実施、そして後片付け等に多くの会員さんにご協力頂きました。有難うございました。次回こそ、晴天の下で児童を楽しませてやれたらな、と実感しています。



(八木順一)

